手づくり市民メディア

あまいろだより

vol.56 2024.6.15

助産師さんと考える 性のはなし

イベント

＼ 滋賀県内巡回開催中！ ／

お産写真展 ～助産所での命の誕生～

産む、産まれる―それは日常生活の一部。助産師がそばにいて、家族と迎えるお産。その瞬間を、ぜひ感じてみてください。

6/25～7/3　野洲図書館
7/9～7/23　近江八幡図書館
8/3～8/18　水口図書館
9/10～9/23　県立図書館
9/25～10/9　永源寺図書館
12/4～12/13　五個荘図書館

主催
共同助産所お産子の家
滋賀県東近江市八日市緑町17-5　tel.0748-25-0600

＼ めっちゃいいかんじ～ ／

音声配信 **「学校行かないカモラジオ」**
毎週月曜日 18 時に配信更新です !!

滋賀県出身の大学生、井ノ口環（たまき）さんがインタビュアーとなり、学校に行きづらい子どもの育ちや学びを支える活動に取り組む方々を訪ねて、お話を伺う約20分の番組が始まっています。

Spotify、Podcast、Youtube でお聴きいただけます。

Spotify　Podcast　Youtube

NOW ON SALE

何度も洗ってつかえるエコラップ
ミツロウラップ 販売中 !!

Beeswax Wrap ミツロウラップ

オーガニックコットンの生地にミツロウ（たまぱん@信楽のニホンミツバチのミツロウ、オーガニックミツロウ）とオーガニックココナッツオイルと松ヤニをいい塩梅にブレンドして、あまいろ探偵団が手づくりしています。
（監修 Biwabochi ちまり）

▶ 取扱店　Base For Rest（東近江）、自家製酵母パンひとつぶ（能登川）、NPO 碧いびわ湖（安土）、自然食品と生活用品の店 hana（草津）、cafe あわいさ（信楽）

▶ 発送ご希望の方は、あまいろだより FB・インスタにメッセージにてお問い合わせください。（送料別途）

Sサイズ 13×13cm　（半分に切ったリンゴなどに）
Mサイズ 20×20cm　（.お皿に残ったおかずなどに）
Lサイズ 26×26cm　（サンドイッチやおにぎりなどに）
LLサイズ 28×40cm 、36×36cm　（キャベツ半分などに）

あまいろだよりに
ご意見ご感想を
お寄せください
amairo.media@gmail.com

あまいろだより（天色便り）第56号
特集　助産師さんと考える性のはなし
編集　あまいろ探偵団
（北岡七夏・志萱未来・中野和子・藤井朋子・森優子）
表紙タイトルロゴ　岸田知之
発行日　2024年6月15日
発行　特定非営利活動法人碧いびわ湖
～大切なことを他人まかせにしない。自分たちで力をあわせてつくる～
TEL 0748-46-4551　FAX -46-4550
Eメール info@aoibiwako.org
ブログ http://aoibiwako.shiga-saku.net/
碧いびわ湖
びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを使用しています（びわ湖の森の間伐材活用）
kikita biwako-no-mori

助産師さんと考える 性のはなし

変化していく自分の体
少しずつ大人になって
これから出会うパートナーと
子どもを授かる準備が進む
これまでにない渦巻く情動との付き合い方
大人だってどう話をすればいいのか
難しくって悩むところ
でもとっても大事な〝性〟の話

〝命〟の授業を県内各地の学校で二十七年にわたって続けてこられた助産師・齊藤智孝（さいとうちたか）さんに、どんなふうにお話しして、うかがいました

プロフィール

さいとう ちたか
齊藤 智孝さん

共同助産所・お産子の家代表。助産師歴38年。助産院・自宅出産介助に携わりながら、27年間県内各地の学校で『命の授業』を続けている。滋賀県立大学等で非常勤講師も務める。好きな食べ物は、だし巻き卵。

あまいろだより（以下あ） 齊藤さんは県内各地の学校で『命の授業』を続けられています。それをやり始めたのはどういうきっかけだったんですか？

始まりはおへその話

齊藤（以下さ） うちの子どもが小学校二年の時に国語でな、『おへそのひみつ』っていう単元があって、家帰ってきてな、「お母さんのおへそと自分のおへそ、ひっついててんなー」って言ったんよ。うーん？厳密には違うぞ。「あなたのおへそはね、私のおなかの中にいた時に胎盤とつながってたから。お母さんのおへそとあなたのおへそがつながってたわけじゃないねんなー」って話をして。ちょっと担任の先生にこんな話してたって言うてみたんよ。そしたらね、間違った認識をみんなにさせたかもしれんって言って、齊藤さんの思いで授業をしてみませんかって言ってくれて。それでおへそとか胎盤とか、お腹の中でこんなふうに赤ちゃんが過ごして、赤ちゃんが一生懸命生きようと思って生まれてくるんよって話をさせてもらったんよ。そしたら校長先生が、助産師の立場で一年生から六年生まで、先生とプログラムを作ってやってくれたらどうやって言うてくれてな。

あ 性教育として？

さ そうそう。すごい面白そうや、ありがたいって思って。それが二十七年前。そしたら以降も学校全体でやっていくことになって。それでまた、転勤で他校に出た先生らがあの授業をやってほしいと、あの話を子どもに聞かしたいと言ってくれて、三十校、五十校に広がって。教員も学ばなあかんって教員研修もやり出すと、また増えて、みたいな。

あ 今は年間どれくらい授業を？

さ 今年で二十八年目になるんやけど、多い時で年間百二十校ぐらい、小学校から大学まで。今は世代交代してて、かなり若手の助産師に行ってもらうようにしたはずやねんけど、去年も八十校行きました。

根っこは人権のこと

あ どんな内容を話されてるんですか？

さ 文科省から降りてきてる教育方針に則りながら、プログラムを先生たちと一緒に作ってな、低学年は自分の体とか、赤ちゃんがどうやってお腹の中で大きなって生まれてくるのか、中・高学年では大人の体への変化とか人とのコミュニケーションとか、中学・高校生にはパートナーを得て恋愛関係を持つこと、大まかにはそんなこと。

そうこうしてるうちにいじめの問題もあるし、不登校の問題もあるし、子どもらのスマホの保有率がどんどん低年齢化して増えてることとか。SNS もそやし、子どもを守る環境、ほんまに日本は甘すぎるよな。一歳半でもユーチューブ観てるで。朝起きたらタブレット見て、夜寝るまで見てるという子が大量生産や。スマホが入ってきてな、悪い大人がいるからやけど、自分の裸の写真送ってくれって言われて送ってしもたりな、いじめで性的なことさせたりな。おまけにコロナもあって、学校まで一人一台タブレットやろ。本当に顔見て目見て人と対話する時間、人と関わる時間が減ってしまって、人との関わり方を変えてしまってるなって思うことがあって。そやし、心の発達、コミュニケーション能力アップっていうところにちょっとずつウエイト置いてやるようになってきて。でも、根幹にあるのは命の大切さとか命のこと、結局人権につながる根っこの根っこの話。そこが評価されて続いてきたんじゃないかな。

で、一九九二年に国から、中学二年生の副読本として『思春期のためのラブ&ボディBOOK』っていって、妊娠のこととか恋愛のことが書かれた冊子が出たんよ。過激やって批判もあって全部回収されてしもたんやけど、内容はよくて、その中に〝恋愛を成就するための八か条〟っていうのがあったんよ。それを小学校の先生と内容を吟味して〝みがいておきたい8つのパワー〟（本文末参照）っていうのに作り変えて。この8つのパワーを踏まえて自分の思いを言ったり、人の話を聞いたり、こういう時はどう言うたらええかなみたいなことを練習していって、心を大人にしていこうみたいなことをやったり。

あ これ、大人が読んでもいいですよね。

さ こういうなんが人権やったり、対等な人間関係作る、素敵な恋愛ができる根底やんな。今言われてる LGBTQ のことも、結局男とか女とかじゃなくて一人一人が大事で、命の重さ尊さはみんな同じ、誰一人いないと困る存在。根底にそれがしっかり分かって、対等な人間関係を作っていったら、男の子同士、女の子同士の恋愛も、どちらも愛すること、何も変わらない。そういうなんを心の土台として作っていって大人になっていってくれたらええんちゃうかなとすごく思って。

性をめぐって子どもらが関わる事件とか事案が、色々ニュースになったりしてるやろ。学校の先生の不祥事もなくならへんしな。でも学校もそんなことがあっても、場当たり的処置でやり過ごそうとする、真っ正面から向き合うところがない。本当には議論しないし、何がダメなのか、何でそれをしたらあかんのかって、そこの部分がぶっとんでしもてるように思う。そこは真っ向から、体当たりで、「小さい時からプライベートゾーンはきれいにして守る。人前で見せへん、触らへん、触らせへん」って言うて、自分で自分の体を守っていく。今からここを、ここからやるしかないしな。

性の目覚めとの付き合い方

あ いじめの場合にも、被害を受けてる子の体や命を守るのと同時に、いじめてる子が自分自身で、被害を受けてる子の状況や気持ちを想像して、こんなんあかんで、やめとこうやって思ってほしいですよね。どうやったらそれを考え始められるんでしょう?

さ 伝えていくべきことは何にも変わらない。「プライベートゾーンは大事大事。きれいにして守ろうね」って。「人前で見せんよ。触らせんよ」、その繰り返し。男の子も女の子もな。それがわかってたら、ひいてはみんなの体も守れることになるやろ。自分も守るし、人も傷つけへんとか辱めへんって。繰り返し繰り返し積み上げて、自分を大切にする、人も大切にする、そういう価値観、感覚を作っていく、これしかないねんけどな。

それと、日本では「触ってはいけません！汚い！恥ずかしいよ！」って怒ってしまうやん。ずっとそれで来ると小学校五・六年とかで「マスターベーションあかん。触ったらあかん、アホになる」みたいなな。でも自分の部屋で触るのは全然オッケーやし、性に対する欲求が高まった時には調節していく。合法的に裸の写真とか見てな、「美しいなー」とか、「うわ～」ってハラハラドキドキして、性の目覚めが起こって…それは真っ当なこと、警察捕まえにけえへんよ、コントロールすることが大事、生涯そうやねん、って。それをな、野郎何人かでな、集団でおふざけしてやるもんじゃないでって言うんよ。

あ いのちに直接携わる助産師として、子どもたちに語りかけたいことは何ですか？

さ ナチュラルに動物学的にね、「好きかも」とか、「一緒にいたいかも」とか、「共に生きたい」とか、そうしたら普通になんとなく体が求め合って、家族を作っていきたいなってなるやん。愛し合うって、すごく動物学的に自然なことだと思うよ。でもそれが本当になくなってしまってて、マッチングアプリとかで出会って、付き合ってもいない、どんな生き方してやるかも分からへん、ただセックスだけするっていうふうなことが増えてきてるように思うねん。最近、どこの大学でも高校でも聞くんやけど、全然普通に「子どもなんていらん、大変なだけや」って男も女も言うねん。もう日本消滅するで、人口減って。

で、この頃高校で言うようになったのは、動物学的に本能的にね、触れ合う、求め合う、普通に家族を作っていく、そういった自然な心のありようとかをね。基礎体温を測るでしょ、排卵日前後ってなんとなくね、触れ合いたいなとか、求め合うようになっとんねんって。それで授かりやすいような状況を作っとんねんって。だから、ちゃんと基礎体温を測って、排卵日前後五日間、精子も卵子も一番授かりやすい時やしな、授かりたくなかったらそん時を避けたら、授かる可能性はうんと低なるねん、って言うねん。自分の体のこと理解できてないのに、「一回で妊娠すると思ってへんかった」って、何の根拠もない！「基礎体温計ってこい！」言うたんねん。お産もそうやけど、動物学的に産み出す力がある、生まれてこようとする力があるっていうようなこととか、普通にそうやって触れ合う、愛し合うって本来素敵なことやし、ほんわか超安心あったかい、そういうものなんやでって話もしてます。

もうちょい頑張れ！大人！

あ お産が生活の場から離れてしまっているということとも関係しそうで。

さ そう、お産の場でも無痛分娩を選択する人が増えてきてるでしょ。「痛いの無理、いやや」って。産める体があるとか、生み出てくるもんやとかね、そういう認識がなくなってきてて。でも生まれた後、赤ちゃんって泣くじゃないですか。子育ても駆け引きだらけじゃないですか。赤ちゃんの気持ちを汲み取ってお世話できるか、ってもう根比べ。二～三歳の子どもも、「ここから先ごねたら親は折れよるか？ごねても親には勝てんか？」とか駆け引きだらけやろ。だからね、泣く→無理、泣きやまない→無理、自分の思い通りにいかない→無理、言うこと聞かない→無理。無理って丸投げしてしまうこと、よく目にするようなってきたけど、でも私からしたら、やっぱり身近な養育者が丸投げしてたら育つものも育たないなと思うから。ある一定は身近な大人がな、やっぱり無償の愛情を注いで養育するっていう立ち位置で、当たり前のように産んだら育てる責任がついてくる。子どもたちは無償の愛情を注がれて養育されるべき存在だっていうことを、分かって、大人になっていただかなーと思うんよ。

あ そうですよね。

さ でもそこが言いにくくなって、「周りが支えるから」って。いやでもそんなん全部は支えきれへんよ、っていう話だよ。だからそれも含めて小さい積み上げで、大人は大人の立ち位置でやっぱりやるべきことあるし、子どもたちは守られるべき存在やから、そこをはき違えんと、大人もうちょっと頑張れって、私いつも思ってしまう。

あ 全部やっぱり繋がってますよね。子どもの時に自分の体大事なんだよ、自分の体を知るんだよっていうところから、妊娠したら自分の体どうなるんかな?それってどういうことなのかなって知って。

さ そうなん。もっと自分の体のことを知って大事にしてほしいなって思う。価値観とか感覚とか考える道筋とか心のありようの話をしてるけど、こういうことってほんまに少しずつ少しずつ積み上がってくるもんだと思うよ。ポンって変わるもんでもない。それをやっていくしかないなと思ってる。

あ 私たちも何かできることがないか考えたいと思っています。今日はありがとうございました。

【 みがいておきたい８つのパワー 】

1. 自分の気持ちをさぐる力
2. 相手の気持ちと人権を尊重する力
3. 自分を認めてほめる力
4. 相手を認めてほめる力
5. 自分をコントロールする力
6. 相手をコントロールしない力
7. 自分を表現する力
8. 相手の話を聞く力

暮らしのコラム

我家の性教育

北岡（きたおか） 七夏（ななつ） 木版画家、あまいろ探偵団

３番目の子を授かったとき、２人の息子たちに出産に立ち会ってほしいと思った。親の必死な姿や赤ちゃんが実際に産まれるところを見たら、命について何か感じてくれるはず。後から思うと、それは大切な性教育だった。

それまでは産院での出産だった。2歳と５歳の息子たちを、何時始まるかわからないお産のときに、確実に産院に連れて行けるかは不安だ。でも家でのお産なら必然的に立ち会えるだろう。だから自宅出産にしようと決めた。

お産は夜中に始まった。助産師さんが来てくれ、息子たちも起きてきた。夫につかまりながら四つん這いで、お産の波と痛みに集中していく。マンションの一室で家族と一緒に娘を産んだ。後で助産師さんから、息子たちが私のおしりに鼻先が付くくらいにかぶりつきで見ていたよと教えてもらった。息子たちが、赤ちゃんが産まれるところを一生懸命に見ていたことが嬉しかった。

子どもたちが少し大きくなった頃に、どうしたら赤ちゃんができるのかということを聞かれ、説明する機会があった。「好き同士が抱き合いたくなって身体をくっつける。女の人のお股には赤ちゃんが産まれる穴があって、お腹の下の方にある卵に繋がってる。男の人のタマタマでできたたくさんの赤ちゃんの種を、おちんちんから女の人の穴に入れると卵まで泳いでいく。卵までたどり着いた種が赤ちゃんになる。母と父も、そんなふうにして抱き合ったからあなたたちが産まれた」と話した。子どもたちがどこまで理解したかは分からなかったが、私が「花（娘）が生まれるとき、みんなで出てくるところを見てたんやで」と娘に言うと、息子たちは「そうや！なな（母）のお尻から花の髪の毛が出てきたのを見てたんやで！ぬれた海苔みたいやった」と娘と私に教えてくれた。

思春期のころは、子どもたちそれぞれに私から話をした。精通し、生理がくる年頃には言葉にならない欲求も出てくる。欲求のままに男女が交わると、赤ちゃんができる可能性がある。やむにやまれぬその欲求は命に繋がっている。だが欲求をコントロールできずうまくいかないこともあるかもしれない。私にも思い当たることがある。また、身体と性自認が違うということもあるかもしれない。

性について学ぶことは命や生き方に直結している。真剣に向き合うことが必要だ。自宅出産したあの夜の記憶は、子どもたちの人生の中で、命と向き合うときの指標となるはずだ。